

極早期緑内障の網膜神経線維層欠損と網膜内層の進行様式と乳頭出血の関係の解明

著者	宇田川 さち子
著者別表示	Udagawa Sachiko
雑誌名	平成28(2016)年度 科学研究費補助金 奨励研究 研究概要
巻	2016
ページ	1p.
発行年	2021-04-25
URL	http://doi.org/10.24517/00060643

[◀ Back to previous page](#)

極早期緑内障の網膜神経線維層欠損と網膜内層の進行様式と乳頭出血の関心の解明

Research Project

Project/Area Number	16H00663
Research Category	Grant-in-Aid for Encouragement of Scientists
Allocation Type	Single-year Grants
Research Field	臨床医学C
Research Institution	Kanazawa University
Principal Investigator	宇田川 さち子 金沢大学, 附属病院, 視能訓練士
Project Period (FY)	2016
Project Status	Completed (Fiscal Year 2016)
Budget Amount *help	¥510,000 (Direct Cost: ¥510,000) Fiscal Year 2016: ¥510,000 (Direct Cost: ¥510,000)
Keywords	Preperimetric glaucoma / スペクトラルドメインOCT / 経過観察

All

Outline of Annual Research Achievements

【研究目的】 Preperimetric glaucoma (PPG)において、スペクトラルドメインOCT (SD-OCT)の黄斑部解析とHumphrey視野10-2 (HFA10-2)を2年以上経過観察を行った症例において、構造と機能の進行速度および互いの相関を検討し、極早期緑内障の構造と機能の進行について、関連因子を検討する。

【研究方法】 当科でPPGと診断され、網膜神経線維層欠損 (RNFLD)が上下のいずれかに存在し、2年以上経過観察可能で、RS-3000 (NIDEK)で9×9mmの黄斑マップ (512×128)でSSI6以上の画像が5回以上、信頼性のあるHFA10-2を5回以上測定できた21例24眼 (男性6例、女性15例、平均年齢57.1±10歳)。等価球面度数-6.0D未満、眼軸長26mm以上、内眼手術既往、緑内障以外の眼疾患、視神経視路疾患の例は対象から除外した。SD-OCTはG chartの各8セクター {内周 (直径1.5~3.0mm)、外周 (直径3.0~6.0mm)各4象限}および上下で網膜神経線維層+網膜神経節細胞層+内網状層 (GCC)の厚みを、HFA10-2はOCTに対応させ、4分割および上下について各々進行速度をトレンド解析し、対応するGCCとHFA10-2の進行速度の相関を用いて進行に関連する因子を検討した。

【研究成果】 下側にRNFLDが存在する (下側RNFLD)群は上側にRNFLDが存在する (上側RNFLD)群と比較して、RS-3000の外周下耳側と下方のGCCが有意に進行が速かった ($p=0.016, 0.013$)。HFA10-2では、下側RNFLD群が上側RNFLD群と比較して、上下半視野ともに進行が速かった ($p=0.002\sim0.032$)。乳頭出血 (DH)の有無別では、DH+群のほうがDH-群に比べて、上半視野の進行が速く ($p=0.030$)、RS-3000の外周下耳側のGCCの進行が速かった ($p=0.034$)。PPGにおいて下側RNFLD群は上側RNFLD群と比較して、DH+群はDH-群と比較して、黄斑部の構造と機能の進行が速い。

Report (1 results)

2016 Annual Research Report

Research Products (1 results)

All 2016

All Presentation

[Presentation] Preperimetric glaucomaのSD-OCTの黄斑部解析とHumphrey視野10-2の経過観察

2016

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-16H00663/>

Published: 2016-04-21 Modified: 2021-04-25